１９９７年（平成９年）

・「札響くらぶ」創刊号発行
・２度の交流会を開催
・札幌コンサートホールがオープン、札響が柿落としの演奏
・初の練習見学会を開催

「札響くらぶ」創刊号

現在は年４回､順調に発行されて 40 号を超えている「札響くらぶ」ですが、札響くらぶ発足当初はそうはいきませんでした。やっと創刊号が発行されたのは札響くらぶ発足の翌年 1997（平成 9）年１月でした。

97-01

創刊号

札響くらぶ

楽しく過ごした3時間
楽団員との交流会

お酒を片手にくつろいで、管楽器・弦楽器の演奏を聴く

こんな素晴らし、そしてとっても贅沢な時間を過ごしたことがありますか？CDやレコードではなく、演奏者の息づかいが聞こえるほどの目の前での生演奏を楽しむ豊かな時間です。

去る12月21日土曜日、札響の応援団「札響くらぶ」の会員と札響の楽団員の交流会を行いました。交流会は2部構成で、最初の部では今後の「札響くらぶ」の活動について1時間ほど意見交換をしました。昨年、北海道新聞の紙面で札響について様々な面から紹介して下さった各家記者をお招きし、話をしていただきました。参加者からの様々な質問や要望に、楽団員の方や事務局の方がたたたたとなってしまう場面もありました。

第二部はビールを飲み、オードブルをつつきながら楽団員の方々と楽しく語らう親睦会でした。ここで思わぬ出来事、といってもあらかじめ楽団員の方々からお話があったのですが、札響の管楽器と弦楽器の演奏を聴かせて頂いたのです。お酒でちょっと喉を湿らせ「つろぎながら聴きます？、音色が心に込み入って深い感銘を与え出します。会場は札幌駅北側のビルの10階のサロンで、演奏者の後ろの窓に映る夜景が演奏をさらに華麗気を盛り上げます。チェロを演奏してくださった浜尾敏さんは今年の1月11日で札響を退団されましたが、今後は「札響くらぶ」の会員として札響を応援していくという入会宣言をしていただくなど、楽しい2時間はあっという間に過ぎてしまいました。

「札響くらぶ」のスタイルは創刊準備号で既に決まっていましたが、慣れない素人が集まっての誌面作りで、最初のうちはかなり苦労したようです。しかし、この年は ４号まで何とか年４回の発行を達成しました。

２度の交流会を実施

この年は交流会が２度行われました。

１度目は５月 24 日、中央区の盤渓幼稚園の体育館で行われました。総会を兼ねての開催でしたが、会員 80 人、楽員 30 人が出席し、盛大な会となりました。楽員有志による金管五重奏と弦楽三重奏が演奏され、豚汁など手作りのご馳走にお酒と、最高の気分で生演奏を楽しみました。

雰囲気が一層盛り上がったころ、窓の外から何やら音が響き渡りました。一同何事かと目をやると、ベルン地方の衣装をまとった事務局次長の吉田充さんが巨大なアルペンホルンを演奏しているのでした。やんやの喝采を受け、ホルンの演奏が終わると、今度はオーボエの岩崎弘昌さんが飛び入りの演奏をして下さるなど、楽しい２時間半はあっという間に過ぎていきました。

札幌コンサートホールオープン

札響の定期演奏会は札幌市民会館を会場として始まり、その後 1975（昭和 50）年、より客席数の多い北海道厚生年金会館に変わりました。更に 1994（平成 6）年からはその時々で両会場を使い分ける、という方式になりました。

これらの期間を通して、札響ファンの間では常により良いホールで札響の演奏を聴きたい、という声が聞かれました。そういう声は 1983（昭和 58）年に大阪のザ・シンフォニーホール、その後の東京のサントリー・ホールの誕生でより一層強くなりました。現実に、1980 年代から「芸術文化都市札幌」を目指す様々な活動が活発化し、そういう活動で常に中心に考えられたのが札響であり、その活動の本拠地としてのホール建設への模索でした。

そのような時に、降って湧いたように札幌開催が決まったのが 1990（平成 9）年のＰＭＦ（パシフィック・ミュージック・フェステ

ィバル）でした。「札響の本拠地と、世界的音楽祭の発表の場を」という声が、あっという間に市民の間に広まり、世界に誇りうる音楽専用ホールを、ということが現実味を帯び、それが札幌コンサートホールKitaraの完成として実を結びました。

札響くらぶは、完成前の実際に客席を埋めての音響テストに協力を求められ、多くの会員が期待に胸をふくらませて参加しました。ホワイエの豪華さ、初めてみるワインヤード型の大ホールにまずびっくり。そして、札響によるドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」の演奏に誰もが耳を疑いました。「これが札響の音なのか。今までのは何だったのだ」という思いにとらわれ、「ホールも楽器の一部」ということに心から納得しました。

そして、7月4日オープン。柿落としのステージを務めたのはもちろん札響でした。

札響の柿落としコンサート

当日は、落成記念式典で札響と市民合唱団による「第九」の演奏などがあり、その夜、「柿落としコンサート」として秋山和慶指揮の札響によってサン＝サーンス交響曲第3番「オルガン付き」などが演奏されました。

初の練習見学会

音楽好きな人なら誰でも1回は、プロオーケストラはどんな練習をするのか実際に見てみたい、と思うことでしょう。しかし、現実にはほとんどそういう機会はありません。

札響くらぶが発足した当時から、会員のなかには「札響の練習を見学したい」という強い要望がありました。それがこの年の10月5日に実現しました。

初の練習見学会（芸術の森アートホール）

日曜日のこの日、札響の練習場になっている芸術の森アートホールで初の練習見学会が行われました。指揮は山下一史氏で、第395回定期演奏会の一日目の練習でした。会員約60名が集まり、ほぼ一時間息を詰めるようにして見学しました。

その後は札響くらぶの毎年の恒例行事となり、更には後に札響が行ったゲネプロ見学会もこの見学会がきっかけとなりました。

2度目の交流会

11月27にこの年2度目の交流会が、キタラ3階の大リハーサル室で行われました。会員と楽員が交流しやすいように、テーブルを居住地区毎にするなどの工夫もあり、これまで以上に楽しい交流会となりました。

◎この年「札響くらぶ」に登場した人

円光寺雅彦（仙台フィル常任）
高関　健（群響音楽監督）
岩城宏之（札響桂冠）
尾高忠明（読売日響常任）
大垣内英伸（Perc）、田中　徹（Tb）
水谷正志（Vn）、田中正樹（ﾗｲﾌﾞﾗﾘｱﾝ）
松本了英（ｽﾃｰｼﾞｽﾀｯﾌ）